

スキルアップ目指し“ボラコの会”初の事例検討会

全国ボランティアコーディネーター研究集会 (JVCC) 国立オリンピック記念青少年総合センター
 —公益財団法人キリン福祉財団助成事業— 2020・2・22 (土)・23 (日)



小児医療施設ボランティアコーディネーターの会

第4号 2020/3/20
 事務局
 東京都新宿区若松町 10-1-302
 ☎080-5527-4379
 代表 坂上和子

本会は小児医療施設のボランティア活動を活発にすること、立ち上げました。お互いの病院を訪問したり学習会を開催し、コーディネーターのスキルアップを目指します。会員募集中。

参加者と意見交換



“ボラコの会” 2019年度報告
 坂上 和子

2020年2月22日、23日、両日にわたってボランティア研修会が開かれました。今年度は「病院分科会」に「小児医療施設分科会」を立ち上げ、19人が参加されました。テーマは「小児医療施設のボランティア活動を生み出すボランティアコーディネーターの役割」とし、2人の講師による調査報告と4人のこども病院のコーディネーターによる実践報告がありました。本紙はその報告です。

なお同日午前、2019年度の総会を開催しました。規約に基づき、事業報告・会計報告・事業計画を報告し承認されました。今年度の主な実施事業は次の5つ。①埼玉小児医療センターボランティア活動視察と交流会②「全国ボランティアコーディネーター研究集会」(JVCC)参加。③ボラコ新聞3号発行、④同紙4号発行。⑤総会開催。

2018年1月に設立した当会もおかげさまで、2年がたちました。設立時14人の正会員が17人に増えました。



参加者 19人

- ・松尾智種 福岡市民病院元 CO
- ・伊波邦子 沖縄県立南部医療センターCO
- ・猪又努 NPO遊びのボランティア VOL
- ・河盛久美子 大阪母子医療センターCO
- ・泉名節子 埼玉県立小児医療センターVOL
- ・今城允沖 あいち小児保健医療総合センター
- ・坂上和子 NPO遊びのボランティア CO
- ・野中淳子 神奈川県立保健福祉大学
- ・米山雅子 神奈川県立保健福祉大学
- ・加藤悦興 神奈川こども医療センターCO
- ・富澤真麻 埼玉県立小児医療センターCO
- ・金岡好 あいち小児保健医療総合センターCO
- ・佐藤直子 宮城県立こども病院 CO (電話)
- ・森智恵子 神奈川こども医療センターVOL
- ・参加者A 龍谷大学ボランティア CO
- ・参加者B ランパスの会 VOL
- ・参加者C 徳島県社会福祉協議会 CO
- ・参加者D 過去に総合病院元 CO
- ・北村公重 公益財団法人キリン福祉財団

小児医療施設のボランティア活動を生み出すボランティアコーディネーターの役割

—困難な事例や成功事例から学んだこと—実践報告



金岡 好 実践報告
 あいち小児保健医療総合センター 兼任元幼稚園教諭。2015年に現職。外来保育士として、保育業務とボラコの兼任と限界についての報告



富澤 真麻 実践報告
 埼玉県立小児医療センターボラコ
 2017年より現職。院ボランティアの継続のために努力していることについて報告



佐藤 直子 実践報告
 宮城県立こども病院ボラコ
 元言語聴覚士 2017年から現職。260人余のボランティアの調整。きょうだい支援の重要性と悩み



加藤 悦興 実践報告
 神奈川こども医療センター ボラコ
 元看護師。約400名のボランティア(30のグループ)の活動報告と課題について実践報告



坂上 和子 講師
 NPO 病気の子ども支援ネット代表
 「小児医療施設ボランティアコーディネーターの会」立ち上げ経由とカナダ視察調査報告



野中 淳子 講師
 (神奈川県立保健福祉大学 教授)
 全国の小児がんのこどもがいる病院におけるボランティア調査報告

JVCCで「ボラコの会」分科会を企画して
 神奈川県立こども医療センター 加藤 悦興

1年前の京都大谷大学で開催されたJVCC2019に坂上和子さんと一緒に参加した時、「来年は東京開催、ボラコの会の分科会を持とう。みんなで集まり勉強会・交流会、そして総会をしよう。」と2人で話しました。その場で日本ボランティアコーディネーター協会事務局長の後藤麻理子さんにご挨拶し、2人で実行委員長になりました。月1回程度都内で委員会があり、今回に至りました。

カナダのこども病院視察の時も私どもの病院で初の全国大会開催も、そして今回も、本当にできるのかな?と曖昧な思いで手を付けましたが、終わってみて「できた!よかった!」という思いになります。そして、また新たな先の道を感じます。坂上さんはその必要性に確信もって進んでいます。私は実践してみても一つずつそう思います。

今回は、JVCC全体の進め方、分科会の進め方、また新型コロナウイルス対策・対応等に関連した危機対応への調整で多くの学びを得ました。それは今後に繋がる事でしょう。

分科会には見慣れた顔ぶれ方々の他、4名参加して下さり全員で19名でした。本音のトークがなされた反面、表出で終わった感もありました。しかし、きっかけとしての一つになること、そしてさらに深めていくには繋がりと刺激が大切でしょう。それがボラコの役割でもあり病院見学の意義でもあると思えます。

翌日午後、前日の続きのような会でしたが、そこでも課題がそれぞれあり、話すことや繋がる意義を実感しました。今回の研修会で、少しですがボラコの会の広報もできた感じです。愛知のボランティアリーダーのお話を聞いた時、ボランティアコーディネーターだけでなくボランティアも一緒に会が必要だと思えました。ようやく、そこに行きついたような感覚になりました。おこがましいのですが、コーディネーターは、繋ぐだけでなく、ボランティアや受け入れる組織が成長していく過程に関与するような気がします。私どもの企画に助成先のキリン福祉財団の職員の方がご参加いただき、毎回心強く感じています。ありがとうございます。

参加者感想

NPO病気の子ども支援ネット 坂上和子

JVCCはコーディネーターたちの研修会で25年以上続く歴史ある会です。全国から300人、500人が集まる盛況さ。情熱的なボランティアコーディネーターたちにたくさん出会うことが出来ました。コーディネーターとつながる意義もここにきてよくわかりました。今回ボランティア今城さんのご意見を聞いて、今後「ボラン&ボラコ」が必要だとしみじみ思ったことです。ディスカッションは野中先生の巧みな司会でそれぞれ全員が意見し、多様な意見が交換され、熱気ムンムンでした。

あいち小児保健医療総合センター

ボランティア代表 今城 充沖

この研究会に二日間参加させてもらいました。僕自身はコーディネーターではないので、参加するか迷いました。参加して本当に良かったと思います。特に、初日、同じ小児病院のコーディネーターが、嬉しかった事、困った事を聞いたのは良かったです。僕自身は、遠慮なく本音で、コーディネーターの保育士に思った事や要望を言うことはあっても、その逆はなかなか言って貰えない事が多いので、それを具体的に知れて良かったです。僕がボランティア代表になろうと思ったのはうちのボランティアが個人的にも、組織的にも主体性がないからです。そのことで、コーディネーターの負担になっていると感じました。ボランティアが負担になっているのか？ボランティアが主体性を持つにはまとめるリーダーが必要だと思い、立候補しました。代表にはなったものの理想像が浮かばず、静岡と神奈川のことも見学に行きました。とくに、神奈川のボランティアを観た時に本当に凄いなと衝撃を受けました。そこからあーしたい、こうしたいが出てきて、要望を言うようになりました。今回の分科会やコーディネーターの会での他病院のボランティア視察や意見交換、このような勉強会でのアドバイスはボランティアにとっても、とてもありがたいです。

徳島社会福祉協議会ボランティア推進センター 日下睦子

分科会が始まったときは「場違いなところに来てしまったかも」とめっちゃくちゃドキドキでしたが(笑)みなさんの想いに触れ、共有させていただくことができ。私の想いにも共感・アドバイスをいただき。あつという間の時間で、すごく有意義な時間となりました。分科会が終わったあと、坂上先生が声をかけてくださったこと、ものすごく嬉しかったです。ありがとうございます。ますますアツい想いが込み上げてきて、今は、動き出したい気持ちでいっぱいです(笑)この出会いをこのままで終わらせたくない!!これからも、なにかの形で繋がっていかせてもらえたら嬉しいです。



神奈川県立保健福祉大学 小児看護学 米山 雅子

全国各地の施設からボランティアコーディネーターの皆様が集まり情報共有され、各施設の現状や課題を共有する機会があることは、お子様やそのご家族の療養環境の質の向上には重要であること改めて実感いたしました。ご参加された皆様のお話を伺いまして日々生じる課題や問題を解決、解消なさりながら、そしてときに解決したい状況もおありの中で、ボランティア活動が円滑に展開できるように調整され日々尽力されておられることに改めて畏敬の念を抱きました。施設に1名ないし複数名の設置でかつ他業務と兼務なさっておられる状況で、施設を超えて人と人とのつながっていること、その関係性の中で場は離れていてもお互いに支えあい成長しあえることを感じましたし、リアルタイムに情報共有や問題解決や解消できるツールを持つことでさらにすみやかな活動の助けになるのではとも思ったりもいたしました。今後益々のご活躍を願っており、また機会がありましたら参加させていただきたく思います。

大阪母子医療センター

河盛久美子

ここで同じ喜びや悩みを共有できることが、何よりも成果かと感じました。病院によって、コーディネーターに対して病院が求めていること、ボランティアさんが求めていること、患者さんの求めていることは様々ですが、それぞれの思いを調整しつつ活動まわめていくことはとても難しいことだと思います。ひとり職で、暗中模索な仕事もある中で、ボラコの場合は、自分のやっていることの振り返りの機会にもなりました。皆さんの活動発表をお聞きすることで、今後への意欲もわいてきました。

あいち小児保健医療総合センター

金岡 好

この日までの準備にどれだけ時間と労力を使われたのか知らず、加藤さん、坂上さん、本当に頭が下がるばかりです。今回はコーディネーターとしての嬉しかったこと困っていることに重点を置いていたことで共感が多く聞かれ嬉しかった。また今城さんのズキッとくる声はボランティアの本音だと思います。ここでいろんな助言をいただきありがたい気持ちでいっぱいでした。

沖縄県立南部医療センター子ども医療センター 伊波邦子

当病院はコロナの件で2月20日に管理者からの指示で全てのボランティア活動が休止となりました。私も今回の東京行は直前まで悩みましたが、「ボラコ」の皆様にお会いしたくて、1日目の分科会だけの参加という事になりました。あいちのボランティアリーダーのご意見を伺い、これこそコーディネーターの大事な役割だと感じました。日ごろ活動して下さっているボランティアさんの頑張りや病院の職員に認めていただくような働きかけを日々できたらと思います。

埼玉県立小児医療センター

富澤真麻

他施設の状況をボラコの会の会員以外の方からうかがって、「やらなきゃならないこと」が山のようにあることに気づきました。さらに「やらなくていいこと」「生かされてないこと」も教えていただきました。「あの狭いボランティア室にボラさんの写真はどいう貼ろうか。班ごとしようか」「ツツジ満開のお知らせと一緒に、院内向けのボランティア新聞を発行したい」「CLSと協力してビズプログラムをボランティア発信でやりたい」など、振り返りと展望でいっぱいになりました。会場には、職場は違えど、毎日ボランティアさんと向き合って協働されている方々がこんなに集まっていることに感激し背中を押されました。

神奈川県立保健福祉大学 野中淳子

この度は、JVCCに参加された皆様お疲れ様でした。世の中がコロナ騒動で慌ただしい中において、私自身も一抹の不安に煽られながら1日目に参加させていただきました。そうした中においても皆さんが『参加してよかった』『色々な方の意見が聞けてよかった』というお声が多かったのは、共通の目的や悩み・課題をもっておられるからだだと思います。19名の方が参加され、初めて参加された方もいらして色々な意見を聞かせていただきました。話し合いの場で問題や課題が解決する訳ではありませんが、方向性が見えてきたり、努力できる部分鮮明になり、思考や価値の転換ができるなど、多くのヒントが得られる場になっていたのではないかと思います。これまでの「ボラコ」主催の病院見学の意義も大きく、話の内容がより身近に感じたりイメージ化につながったり、お互いの理解や共感にも繋がっていると思えました。ボランティアコーディネーターの役割りは多岐にわたります、ややもすると複雑です。そうした中で、うまくいったことや患者様や上層部に認めてもらえることも嬉しく大事ですが、うまくいかなかったこと、辛かったこと、もがき苦しんだこと、それらをどう対処し乗り越えてきたのかそのことの方が何倍も記憶に残り未来に繋がる財産になると思います。点ではなく点をつなげる役割を担っておられる皆様方からのご活躍に尊敬と共に、身近なところから地域にも発信していただくことを期待しております。私も皆様からエネルギーを頂き、今できることを一杯取り組んでいこうと心あらたにいたしました。最後にこの会の企画・運営にご尽力いただきました坂上氏と加藤氏、後方支援のキリン福祉財団の北村氏、参加された皆様にご感謝申し上げます。